

## 第9期編集出版委員会委員長を就任するにあたって

東京都立大学大学院工学研究科 河村 明

第9期編集出版委員会は、2004年8月より2年間、水文・水資源学会誌では第17巻6号より第19巻5号までの発刊を担当することになります。私は、第4期の1994年より編集出版委員を仰せつかり、第7期の2000年からは同委員会西日本グループ長を務めさせて頂き、そして今年7月末委員長の要請を受け、これまでの経験もあることから比較的軽い気持ちで第9期の同委員会委員長を引き受けさせて頂きました。ところが、会員の皆様もご存じのように、当学会の事務業務を担当していた(財)日本学会事務センターが財政状況の悪化に伴い、8月17日に(委員長就任直前という絶妙のタイミングで)破産宣告がなされるという寝耳に水の事態となりました。このため初任務は通常編集業務以外にその対応から始まり、折しも私事になりますが、10月から九州大学から都立大学への異動が決まり、旧住居の売却、新居探し、引越に関わる諸々の雑務などがマーフィーの法則のように重なり、9、10月は正しく私の研究テーマの一つであるカオスの状況でした。

現在も私のところで学会事務センターの編集出版に関わる業務を代行しており、通常は就任の挨拶では新しい企画など抱負を述べるところですが、まず当面の目標は、これまでの学会事務センターの業務を滞りなく代行し、これまで通り学会誌を遅滞なく発刊していくことにあります。既に第17巻5号は約1ヶ月遅れで発刊され、6号も1ヶ月程度発刊が遅れる状況となっており会員の皆様にはご迷惑をおかけしています。また当委員会においては、学会誌のみならずインパクトファクター付き国際誌である Hydrological Processes (本学会による特別号)の編集も約年1号のペースで行っていますが、本誌への投稿も非常に多く国際誌編集幹事の負担も増してきています。そこで国際誌編集専門の小委員会を早々に立ち上げる予定にしています。さらに現在、学会誌はJ-STAGEを通じて電子ジャーナルとして登録しインターネット上に公開されていますが(詳細は学会誌第17巻第2号会告参照)、第9期においてもこれを継続して発刊していきます。今後は閲覧状況把握のためアクセス数取得ができるよう機能アップを目指しています。学会誌の投稿や査読、編集出版作業に関しても将来的に電子化の方向で進めたいと思っています。

編集出版委員長に就任してのこれまでの心境としては、「委員長とはクレーム処理とみつけたり」です。その主な原因は、査読迅速が本学会誌の特色の1つではありますが、なかなかこれが難しいというのが現状のようでして、前期から申し渡されています査読状況を的確に把握し査読が滞らないシステムの確立が切に必要と感じています。

最後に、このような混沌とした状況下で切り盛りしていかなければならない第9期の風間副委員長、堀幹事長をはじめ幹事の皆様、そして特に査読担当でご協力して頂く各地区のグループ長ならびに編集出版委員の方々、実際に査読をして頂く査読者の皆様、発刊にご尽力頂く制作関係者に心よりご協力のほどお願い申し上げます。